

2022 年度

九州共立大学

地域連携推進センター 報告書

令和 6 年 1 月

地域連携推進センター

地域連携推進センター 所長
山 田 明

関係者の皆様方には、日頃より地域連携推進センターの活動に御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、文部科学省設置の中央教育審議会は、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(平成30年)という答申を出しました。その中で、地域における社会教育の意義と果たすべき役割として、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」が挙げられています。また、新たな社会教育の方向性として、「開かれ、つながる社会教育」の実現を求めており、全国自治体行政の施策に生かされています。「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」は、教育、特に社会教育・生涯学習の未来に向けても喫緊の課題です。さらに、同答申では今後、より多様で複雑化する地域課題と向き合いながら一人一人がより豊かな人生を送ることが必要であり、持続可能な社会づくりを進めるためには自治体のみならず企業や大学、団体、個人など様々な主体がそれぞれの立場から主体的に取り組むことが求められるとしています。

最近では、ウェルビーイングという言葉が注目されています。自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む地域や国が、どのようにすれば良い状態でいられるのかについて考えることです。先に述べた中央教育審議会答申(平成30年)と同様の方向性を示している社会的概念です。

以上の時代的かつ社会的要請を受け、山積する地域課題を改善するためには、自治体をはじめ地域活動の中核を担っている多様な分野の組織、団体、地域住民の連携協働が必要不可欠です。すなわち、地域総ぐるみで総合的に「つながり合う」ことが必要となるのです。そういった意味で、本学が推進する包括的地域連携協定に基づく地域連携事業プランは、多様な主体がそれぞれの立場から主体的に取り組みつつ、必要に応じて「つながり合う」ことで地域課題の解決に多大な貢献をしています。

令和5年度九州共立大学地域連携推進センター報告書を発刊致します。報告書は包括的地域連携協定に基づく活動の成果をまとめたものです。次年度以降も協定先との連携協働を通じて活動内容をより充実させ、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」の構築を目指した活動を継続的に展開していきたいと考えています。

本学は地域と共に歩む大学の実現と学生の人材育成に重点を置き、学是である「自律処行(自らの良心に従い、事に処し善を行う)」の具現化を目指しています。この基本方針に沿って地域連携推進センターでは、社会のニーズに基づく先進的な地域連携システム(九共大モデル)を構築し、「地域の皆様と共に」をモットーに、オープンな存在としてその機能を提供して参ります。皆様方のご協力をお願い申し上げます。

地域連携推進センターについて

○目的

平成6年に設置した「生涯学習研究センター」は、地域における生涯学習社会の実現を図ることを目的とし、大学を地域社会に開放する際の触媒的な機能として、ここを拠点とした社会人や地域住民並びに学生に対する多様な学習の提供と、生涯学習に関する研究の推進を展開してきたところであるが、近年、「地方創生」が声高に叫ばれるなか、大学にあっては「地域連携・地域貢献」の拠点(中核)となることがこれまで以上に強く求められており、大学全体で組織化された地域との連携協働体制の構築が喫緊の課題となっている。

このことから、本学においては上述の「生涯学習研究センター」の機能を核とし、産業界等との研究協力及び学術交流の推進を目的として設置した「総合研究所」、ならびに大学が行う地域連携活動に係る学内情報の一元管理と対外的な窓口業務や連絡調整を行う「地域連携推進室」の三つの組織を統合した「地域連携推進センター」を設置し、大学の知識・人材を活用した「地域連携・貢献」「研究推進」「生涯学習」の各事業を一体的に行うことにより、地域の活性化及び人材育成の一翼を担うことで「地域に開かれた大学」の定着を目的とする。

○業務内容

(1) 3部門が行う事業への助言・管理・運営補助

①地域連携部門

- ・ 協定締結機関及び協力機関との事業プランに関する調整及び学内機関とのマッチング
- ・ 地域連携事業プランに関する進捗状況の把握・管理
- ・ 個別の学生ボランティアに関する公募・指導・管理・派遣
- ・ 出前講義への教員派遣等の高大接続に関する事項
- ・ その他、地域連携に関する事項

②生涯学習・資格取得支援部門

- ・ 公開講座・シンポジウム・有料講座等の企画立案
- ・ 学部教育と連携した国家資格、教員及び公務員採用試験対策に関する補助講座の企画、運営、実施
- ・ その他、生涯学習・資格取得支援に関する事項

③研究推進部門

- ・ 自治体、企業、他大学等との地域連携に関する共同研究の受入窓口及び学内教員とのマッチング
- ・ 研究発表会等の企画立案・運営
- ・ 研究紀要の発行
- ・ その他、地域連携に関する学内の研究推進に関する事項

(2) 「地域連携推進センター運営委員会」「地域連携協議会」「地域連携推進事業評価委員会」の運営・管理

(3) 協定締結の審議及び締結事務

(4) 「地域貢献・連携事業」報告書(年報を含む)・紀要の発行

(5) その他、地域連携推進センターの運営に関する事項

○地域連携推進センター運営委員会

委員長：地域連携推進センター所長

副委員長：地域連携推進センター副所長 2名

委員：各学部から学長が推薦した教員 各1名

共通教育センターから学長が推薦した教員 1名

その他、学長が推薦した教員

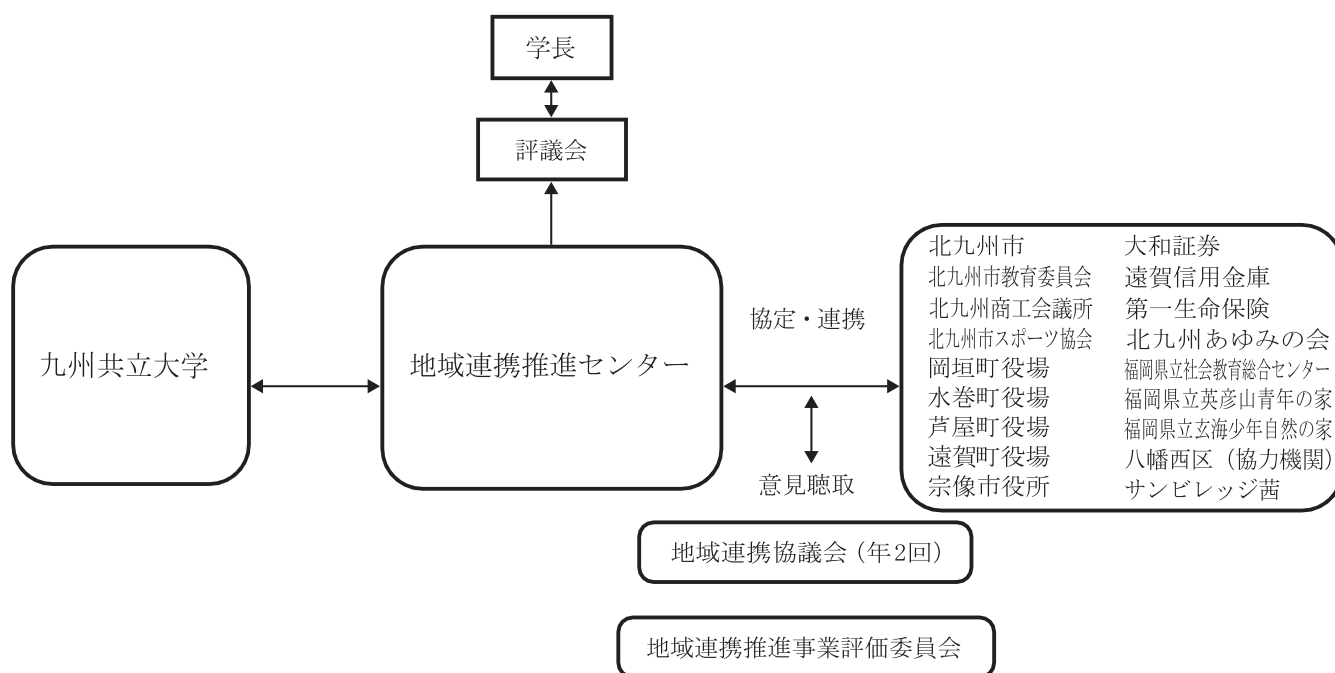
キャリア支援課長

教務課長

事務局：地域連携推進センター職員

※所長・副所長の3名は、それぞれ3部門の部門長となる。

○組織図



目 次

《 地域連携・貢献事業 》

【岡垣町】

海老津駅前イルミネーション事業
岡垣ウォーキング大会・マラソン大会
ふれあいファミリー体力測定会

【水巻町】

水巻学の構築

【宗像市】

地島プロジェクト
離島（大島地区）の健康づくり事業
むなかた市民学習ネットワーク

【北九州市】

子ども食堂プロジェクト
地域安全マップ
折尾まちづくり記念館特別展示

【八幡西区】

折尾プロジェクトⅢ（折尾学Ⅲ）
第 21 回堀川いっせい清掃

【福岡県立社会教育総合センター】

ゆずフェスティバル
はじめてのファミリーアウトドア講座 キャンプ編
第 39 回中国・四国・九州地区 生涯教育実践研究交流会

【福岡県立英彦山青年の家】

ひこさんジュニアキャンプ（スポーツ社会教育実習）

【その他】

全国ふうせんバレーボール大会
小学生のためのレベルアップ短期水泳教室

《 研究推進事業 》

宮古島における国際研究会（経済学部島尻教授）
自然科学研究機構国立天文台（大学支援経費）受託研究（経済学部島尻教授）
宗像市「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」（経済学部梅田教授）
宗像市「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」（スポーツ学部山田教授）

《 生涯学習事業 》

2022 年度【前期・後期】公開講座・市民力レッジ実績報告

《 令和 4 年度包括的地域連携協定を締結した自治体・団体 》

一般財団法人サンビレッジ茜（2023.2.10 締結）

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		海老津駅前イルミネーション事業
九州共立大学	担当者	黒田 伸太郎
	所 属	経済学部
連携機関	機関名	岡垣町役場
	責任者	PR 課 末次 浩之 氏
事業実施日・回数		2022年7月～12月《全9回》
実施場所		九州共立大学・岡垣町役場・岡垣町内各所
事業対象者 参加人数		九州共立大学 経済学部 学生5名
経 費		あり（岡垣町観光協会より支出）
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 本事業では、岡垣町役場との連携により海老津駅前の賑わい創出を目的としたイルミネーションによる地域資源の表現および町の観光資源に係る広報活動に取り組んだ。 2年生3名は、岡垣町内の観光資源について町観光協会のレクチャーや実際に観光スポットを訪問するなどして調査を行い、当該調査をもとに、岡垣町の観光のあり方を検討した。調査結果を踏まえ、イルミネーション事業の広報チラシを作成し、町内の行政回覧によって全戸周知を行った。また、町広報誌1月号に地域情報の有用性を鑑みた特集ページを作成・掲載した。 3年生2名は、昨年度も岡垣町での実習を経験した学生で、当該経験を活かして行政および町観光協会との協議を行い、役場職員や観光協会職員とともにイルミネーション設置作業を行った。 2. 実績 チラシおよび広報誌作成においては、町 PR 課職員の指導を仰ぎながら、撮影した写真やイメージを膨らませてチラシおよび広報誌面を作り込むことができた。また、イルミネーションの設置では、役場職員や観光協会とともにサイクリングをイメージしたイルミネーションの作成を行い、観光資源の表現のみならず、社会人との交流を通じて学生自身のキャリア形成にも寄与した。 3. 効果 岡垣町の地域資源をどのように表現するかというテーマで、学生が実際に現地へ赴き、町の観光について現場の声を現地の空気を感じながら町の歴史や文化を学ぶことができた。さらに、イルミネーション作成においては、町での実行委員会にも参加し、大人との意見交換の場で臆することなく意見を述べるなど、実践を言葉にする機会もあり、実践による学びの効果が高まった。

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

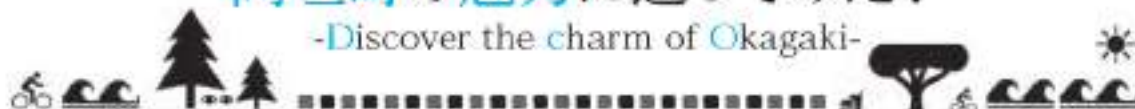
学生の声	・岡垣町のことをあまり知らなかったが、実際に現場に行ってみることの大切さがわかった。 ・観光協会や役場の職員と話すことで、行政に対するイメージが良くなった。 ・地域を良くするには何が必要かを、もっと勉強しなければならないと感じた。
今後の改善内容及び展開	タイトなスケジュールでフィールドワークを実施したため、他の授業との兼ね合いもあって参加者がやや少なかった。学外での実習は相手もあることから、大学の都合ばかりで計画ができないため、今後は予定にも余裕をもたせてスケジュールリングすることによって、抱える課題を克服したい。 ただし、学生の評価は高く、内容を検討しながら次年度も町と協働で事業実施に参加したい。

岡垣町は、九州共立大学と地域連携協定を結んでいます。地域貢献や地域の課題解決について学んでいる5名の学生が、学習の一環として11月に岡垣町でフィールドワークを実施。その中で彼らが体感した「町の魅力」を報告してくれました。

九州共立大学の学生が

岡垣町の魅力に迫ってみた！

-Discover the charm of Okagaki-



岡垣町を訪れたのは今年の11月。町の名前は知っていたものの、実際に行く機会がなく、初めての訪問だった。

JR海老津駅から町内を走るコミュニティバスを利用した。今回初めてこのようなバスの存在を知った。バスと聞くと運賃が高いイメージで、普段はなかなか利用しないが、岡垣町のコミュニティバスは運賃が安価で、経済的に大変優しい乗り物だった。

まずは岡垣町観光ステーション「北斗七星」を訪れた。今回はここを拠点に自転車で町内を回るコースを予定している。自転車をこぎ出し、まず目に飛び込んで来たのは青い海。雲一つない空にきらめく海…。天気も上々、気分も上々!!

ゆうれい坂から自転車をこぐこと30分。山あいのカフェでお腹を満たし、高倉神社へ。樹齢約800年と言われる迫力の御神木が目に入る。大樹から神秘的なパワーをもらうことができた。最後は海や空、町を守る防風林が続くサイクリングロードを訪れ、今日の旅を終えた。

自転車に乗っている間、この町の自然の豊かさを肌で感じた。飲食店も思ったより多く、お昼時は家族連れがお店に入っていく姿を何回も見かけた。気になる魅力的なお店がいくつかあったため、今度はプライベートで町を巡ってみたいと思った。

今回のフィールドワークを通じて、岡垣町は本当に良い場所だと感じた。小倉・博多に近い立地であるうえ、交通の便がよく、そのような中でも豊かな自然と住みやすさが両立していた。

今は大学生のため引っ越すことはできないが、将来岡垣町に住んでみるのもいいなと思えるような魅力がたくさん詰まった町だった。



海老津駅前に

イルミネーションを設置しました

JR海老津駅前のイルミネーションは、令和2年度から九州共立大学の学生と共同で実施しています。今年は、デザインから設置・チラシの作成まで、学生と意見などを交わしながら行いました。学生からは「楽しかった。良い社会勉強になりました」「イルミネーションを通して、町の魅力を発信できたと思います」という声が聞かれました。町の新しい魅力「サイクリング」を表現したイルミネーションを、ぜひご覧ください。

【設置期間】令和4年12月2日(金)～令和5年1月31日(火)

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		第 19 回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会 スポット講座「歩き方・走り方レッスン」
九州共立大学	担当者	名頭 蘭 亮太、西山 侑汰
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	岡垣町
	責任者	生涯学習課
事業実施日・回数		2022 年 10 月 10 日 《 計 1 回 》
実施場所		岡垣町立内浦小学校 運動場
事業対象者 参加人数		ウォーキング・マラソン大会参加者 約 100 名 スポーツ学部学生 6 名
経 費		あり（岡垣町予算より支出）
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 第 19 回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会の参加者を対象に、スポット講座「歩き方レッスン」、「走り方レッスン」を実施した。歩き方や走り方のポイントについてレクチャーすることで、今後のスポーツ活動や体力づくりを楽しく健康的に行うための一助とすることを目的とした。 2. 実績 「歩き方レッスン」には約 30 名の地域の方々、「走り方レッスン」には約 70 名の小学生が参加した。 3. 効果 小学生から高齢者の方まで楽しそうにレッスンに参加してもらった。普段意識できていないフォームのポイントなどをレクチャーすることができ、レッスンの後にも歩き方などの熱心な質問があった。
学生の声		普段関わるのが少ない小学生や高齢者の方に運動指導をすることができ良い経験になった。レッスンの対象者が変わることの説明の仕方や工夫する必要性にも気づけたとする意見が多かった。
今後の改善内容 及び展開		今後も岡垣町との連携を深めながら、楽しく健康的にスポーツ活動を実施できるような社会づくりに貢献したい。さらに、地域連携事業を通して、実践力のあるスポーツ指導者の育成にも取り組みたい。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		ふれあいファミリー体力測定会
九州共立大学	担当者	名頭 蘭 亮太、辰見 康剛
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	岡垣町
	責任者	生涯学習課
事業実施日・回数		2023 年 3 月 4 日 《 計 1 回 》
実施場所		岡垣サンリーアイ ウェーブアリーナ
事業対象者 参加人数		参加者：大人 25 名、子ども 17 名 スポーツ学部学生 3 名
経 費		あり（岡垣町予算より支出）
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 家族でスポーツに親しむ習慣を身につけてもらうことを目的とした「ふれあいファミリー体力測定会」に測定補助者として、本学スポーツ学部の学生とともに参加した。6 種目の体力テストのデモンストレーションと測定の補助を行った。 2. 実績 18 組 42 名のご家族の体力テストを怪我等なく実施することができた。 3. 効果 全ての方が楽しく体力テストに取り組んでおり、怪我もなく測定を実施することができた。測定結果のフィードバックもあったため、今後のスポーツ習慣を身につける良いきっかけになったと思われる。また、参加した本学の学生も普段接することが少ない小学生や高齢者の方に測定の説明を行うことで、スポーツ指導における実践力が身についたと思われる。
学生の声		小学生や高齢者の方など普段関わりが少ない年代の人とコミュニケーションが取れて楽しかった。一方で、年代によって説明の仕方を工夫する必要性について気づけたとする意見が多かった。
今後の改善内容 及び展開		今後も岡垣町との連携を深めながら、本事業のような体力測定を実施する機会を増やしていき、楽しく健康的にスポーツ活動を実施できるような社会づくりに貢献したい。さらに、地域連携事業を通して、実践力のあるスポーツ指導者の育成にも取り組みたい。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		水巻学の構築
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	水巻町役場
	責任者	総務課
事業実施日・回数		2022 年 4 月～2023 年 3 月 《 全 8 回 》
実施場所		九州共立大学／水巻町（フィールドワーク）
事業対象者 参加人数		事業対象者：水巻町民、その他 参加人数（学生ボランティア）：12 名
経 費		地域連携推進センター／水巻町（資料提供等）
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 水巻町の豊かな歴史遺産と大学の知、学生の学びを協働させ、市民のシビック・プライドを喚起する活動を通し、まちの課題解決（魅力再発見）に寄与する。 2. 実績 本学と水巻町との地域連携事業の一環として水巻町に係る冊子を作成した。学生ボランティアが、水巻町が所蔵する資料や文献をもとに編集したものである。町内の地名の由来や歴史・民話・方言など、町に関するさまざまなことからコンパクトに取り上げられている大変貴重な資料として町民に活用されている。 3. 効果 水巻町民の活用はもとより町外への広報としても活用されている（水巻町役場 HP に掲載）。学生ボランティアは、地域の魅力再発見に関わったことにより地域社会への意識の向上、課題解決への処方箋を学んだ。
学生の声		地域活性化をテーマとする本活動に参加した学生は、活動のプロセスで地域を知ること、地域の魅力は再発見できること、その成果を広く地域住民に伝えることが地域課題の解決につながることを学んだようだ。充実感をもった学生が多かった。
今後の改善内容 及び展開		水巻学としての活動は今年のみだが、水巻町教育委員会（生涯学習課）が作成している小学校児童対象の副読本に関わる可能性がある。その際には、地域の歴史をはじめ地域の魅力を感じられるような児童向けの冊子になるように今回の取り組みを活かしていきたい。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		地島プロジェクト
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	宗像市役所
	責任者	宗像市役所コミュニティ協働推進課
事業実施日・回数		2022 年 4 月～2023 年 3 月 《 全 4 回 》
実施場所		九州共立大学／宗像市（地島）／福津市（宮地嶽神社）
事業対象者 参加人数		事業対象者：地島住民／宗像市民 参加人数（学生ボランティア）：26 名
経 費		地域連携推進センター／宗像市／福岡県
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 過疎化が進む離島である地島（宗像市）の地域活性化を目的に、学生の視点で取り組みを検討し実施した。具体的な活動は、以下の 2 点である。 ①地島小学校における次世代育成プログラム ②地島産サツマイモの栽培、収穫、製品化及びプロモーション 2. 実績 宗像市の離島である地島の活性化を目指し、宗像市（ボランティア団体）と本学の学生が連携・協働して、地島の社会資本や地域資源を活用しながら活動を展開した。上記 1. ①②を実施した。 3. 効果 本プロジェクトを通して、離島の地域課題の解決に貢献するとともに、学生においては、社会を生き抜く市民性を涵養する貴重な機会を得て学びを深めた。
学生の声		学生アンケートの結果、離島が抱えている課題を理解するとともに、その課題に向けて改善策を考え、実践していこうという意欲が伺われた。そのプロセスのなかで、情報収集能力・課題発見能力・課題解決能力などの市民性の涵養に効果が表れており、学生自らの成長に充実感を味わっているという回答が多かった。
今後の改善内容 及び展開		次年度の活動予定は、以下のとおり（島民のサポート）。 ①住民がサツマイモを原材料とし島にある設備で特産品開発（干し芋） ②地島小学校の生徒や島民と一緒にサツマイモの収穫、選別、試食交流会の企画運営 ③宮地嶽神社、宗像大社での地島の PR、テストマーケティング

地島の芋 目標の1ト収穫



手掘りを楽しむ子どもや学生たち

本格栽培2年目、学生らも参加

宗像市の地島・地島で、半世紀前まで盛んだったサツマイモ栽培を復活させるプロジェクトが広がりをみせている。本格栽培2年目の今秋は北九州市の2大学も加わり、目標だった約1トを収穫。品質を評価した老舗の菓子店などから仕入れや農地視察の申し込みが相次ぎ、地島ブランドのサツマイモが徐々に浸透しつつある。

(大塚晴司)

新たな収入源で定住促す

島民の減少や高齢化で荒れ地になっていく農地の開墾に4年前に着手。今年は本場・鹿児島県曾於市の農家へ研修に出かけ、島内4か所、約700平方メートルで苗を植えた。活動を続ける中で島の人たちの理解や期待も高まり、島民自身が栽培を始めたり、水やりやイノシシ対策に協力を得られたりするようになり、昨年は400ト上回る1トの収穫に結び付いた。

取り組みでいるのは、島に思い入れのある会社経営者や地島振興に関わってきた公務員らでつくる地島応援団（井上憲司団長）。漁業に並ぶ新たな収入源を確保することで若い世代の定住を促し、有人の島を守っていくのが狙いだ。

取り組んでいるのは、島に思い入れのある会社経営者や地島振興に関わってきた公務員らでつくる地島応援団（井上憲司団長）。漁業に並ぶ新たな収入源を確保することで若い世代の定住を促し、有人の島を守っていくのが狙いだ。

大と九州女子大の学生22人が「地島プロジェクト」として加わり、島民や漁村留学の児童らと手掘りや運搬に汗を流した。

体育の教員を目指す福岡弘太郎さん（21）は「島の雰囲気を感じながら子どもたちと活動できていい経験になった。住民の手が固くなったたり、負担が大きかったりするところで大学生の力を生かしていけたらいい」と話す。

宗像、福津、久留米、八女市内のフランス、イタリヤ料理店や菓子店、仕出し料理店などから引き合いがあり、和洋の菓子やおせち料理、焼き芋として消費者の元に届けられる。応援団では、将来的に島民自身が加工し、出荷できるように、干し芋の開発にも挑む。



多くの客でにぎわった昨年のPRイベント

福津でPR催し 来月6日

地島応援団は11月6日午前10時から、福津市の宮地嶽神社門前町で松ヶ枝焼を製造・販売する「島屋」を会場に、地島産サツマイモのPRイベントを開く。イモやイモを使った松ヶ枝焼、ようかん、甘納豆などのほか、曾於市の農家による焼き芋を販売する。応援団事務局は「たくさんの人に地島産のおいしさを知ってもらいたい」という。問い合わせは島屋（0940・52・0006）へ。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		離島（大島地区）の健康づくり事業
九州共立大学	担当者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	宗像市役所健康福祉部健康課
	責任者	健康サポート係 山本係長
事業実施日・回数		2023 年 2 月 25 日（土）《 全 1 回 》
実施場所		大島小学校 学校ホール
事業対象者 参加人数		参加者：8 人 学生ボランティア：2 名
経 費		依頼元負担
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 「認知症予防」、「認知症患者の特性」、「認知症患者とともに生活をしていく上での周囲の接し方」など、認知予防を意識したプログラムを提供した。 2. 実績 九州共立大学への依頼 ・運動による健康づくりの指導 ・レクリエーション要素を含んだ体力づくり ・島民が持ち帰って自宅でも行えるような運動（筋トレなど）の伝達、測定（InBody、握力、3m歩行、長座体前屈から数種類）および測定後の説明 3. 効果 とても和やかな雰囲気の中で実施することができ、大島島民の方たちへの健康づくり・生きがいづくりに貢献することができた。また、宗像市役所健康福祉部健康課との連携が促進された。
学生の声		高齢者の方たちと接するのは初めてでした。転倒のリスクマネジメントを事前に検討したり、日頃意識していない視点を学ぶことができました。実際にレクプログラムを実践させてもらい自信がつきました。 （スポーツ学部 後藤嵩裕 北九州市立皿倉小学校採用）
今後の改善内容 及び展開		今後も、宗像市役所健康福祉部健康課との連携を深めながら、宗像市の高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進に貢献したい。 

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		むなかた市民学習ネットワーク
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	宗像市役所
	責任者	宗像市役所コミュニティ協働推進課
事業実施日・回数		2022 年 4 月～2023 年 3 月 《 全 4 回 》
実施場所		宗像市役所
事業対象者 参加人数		事業対象者：宗像市民 参加人数（学生ボランティア）：4 名
経 費		地域連携推進センター／宗像市
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 全国でも著名な生涯学習システムである「むなかた市民学習ネットワーク」について、課題（新規受講生募集、活動成果の効果的広報等）解決に向けて、学生の視点から新たな提案および実践を通し、宗像市および「むなかた市民学習ネットワーク」と連携・協働する。 2. 実績 ①広報紙の改善（講座内容、連絡事項等のわかりやすさの視点から） ②募集に関する応募方法の改善（グーグル・インスタグラム等 SNS の活用） ③上記①②の改善点を毎月の広報紙で試し、改善を重ねる。 3. 効果 宗像タウンプレスという市の広報誌に毎号掲載される「むなかた市民学習ネットワーク」広告の改善や受講生募集に一定の効果が確認された。
学生の声		「むなかた市民学習ネットワーク」のボランティアに参加した学生は、生涯学習に関する講座の存在やその必要性を実感した。そのことを通じて地域社会への認識も向上、ボランティアの意義も確認できた。広報ボランティアということで、SNS を活用した新たな視点で自治体との連携に充実感を感じているようだった。
今後の改善内容 及び展開		「むなかた市民学習ネットワーク」の広報活動の一環として、教室の映像や紹介動画等 YouTube を用いた発信、インスタグラムの開設や Google フォームの活用等の方向性が決定している。次年度は、これらのツールの実用化に向けて取り組んでいく。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		こども食堂プロジェクト
九州共立大学	担当者	甘 長青（ちょボラ部部长）
	所 属	経済学部
連携機関	機関名	元気食堂
	責任者	北九州市社会福祉協議会 四宮 嵩世 氏
事業実施日・回数		2022 年 4 月～2023 年 3 月 《 全 12 回 》
実施場所		筒井市民センター（八幡西区山寺町 6-30）
事業対象者 参加人数		事業対象者：筒井小学校児童 240 人（兄弟や家族も含む） 参加人数：経済学部学生 36 人
経 費		なし
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 子ども食堂は子どもたちの居場所づくりを目的としている。活動内容としては、食事、学習指導、遊び、見守りなど、子どもたちと一緒に活動し、たくさんのコミュニケーションを図った。 2. 実績 毎月第 3 水曜日に開催されている子ども食堂に参加し、子どもたちの居場所づくりに努めた。回数を重ねるごとに子どもたちは積極的に話しかけてくれるようになり、より良好な関係性を築くことができた。また、子どもたちが友達を誘ったりして、子どもたちの人数も一気に増え、活気あふれる活動となっている。本事業への参加学生もだんだんと増加してきている。 3. 効果 子どもたちが主体となって活動することが多く、毎回子どもたちの成長が感じられることが多くなった。
学生の声		本事業のような機会がないと小学生と関わる機会がないから、すごく楽しかった。トラブルが続くこともあるが、そのたびに子どもたちの成長が感じられて嬉しい。
今後の改善内容 及び展開		次年度は、一つの限定された子ども食堂だけではなく、様々な子ども食堂に参加し、ボランティアの活動範囲を広げていきたい。



↑子ども食堂の食事とその様子

栄養バランスを考えられた手作りのメニューでボリューム満点です。

子ども食堂ネットワーク北九州から寄付された食材も使用されています。



←学習指導の様子

学年に応じた教え方で
子どもたちの理解を深
めています。



↑子どもたちと遊んでいる様子

室内で安全に遊べるよう、危険を考慮しながら、子どもたちと一緒に楽しく活動しています。子どもたちには椅子取りゲームと折り紙が人気です

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		地域安全マップ
九州共立大学	担当者	貝掛 祥広
	所 属	経済学部
連携機関	機関名	北九州市役所
	責任者	安全・安心推進課
事業実施日・回数		2022 年 12 月 2 日《計 1 回》
実施場所		北九州市立白野江小学校
事業対象者 参加人数		北九州市役所、福岡県警察門司警察署、北九州市立白野江小学校、 白野江校区生活安全パトロール隊、九州共立大学 参加人数：経済学部地域創造学科 18 名
経 費		あり（地域連携推進センターより支出）
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 子どもたちが犯罪から身を守る能力（危険回避能力）を高める防犯教育プログラムとして、北九州市役所と連携しながら小学校の授業の一環として、「地域安全マップ」を作成した。 2. 実績 北九州市役所および白野江小学校との事前打ち合わせ、ならびにルートの下見をはじめ、しっかりと準備を行ったうえで、白野江小学校にて「班編成→事前学習→フィールドワーク→地域安全マップの作成→発表」を行った。 3. 効果 これまでは、新型コロナウィルス感染症拡大の影響により実施できなかったが、北九州市役所の協力もあり、今年度より再開され、学生にとっては直接携わることができ、多くも学びがあった。
学生の声		・北九州市役所、警察官をはじめ、外部の方々と交流する機会が多々あり、たくさんの刺激をもらい、貴重な経験をする事ができた。 ・警察官を目指しているため、今回学んだことを無駄にせず、さらに頑張ろうと思った。 ・社会人になる前にこういった経験ができてもの凄く勉強になりました。 ・小学生をサポートするなかで、接し方など難しいこともあったが、とても勉強になった。 ・これまではコロナ禍の影響で実施することができなかったが、今回初めて実際に小学校で「安全マップ作成」を行うことができて、とても貴重な経験を積むことができた。 ・小学生への教え方など考えながら動けたので、次回はもっとレベルを上げて取り組みたいと思う。 ・今回の活動で、自分にはない小学生の独創的な視点を聞いて勉強になり、さらに小学校の先生の教え方、使う言葉などすごく勉強になった。 ・地域を探索しているときに、小学生にしか分からない考えを知ることができ、いろいろな目線から考えることが必要だと感じた。 ・小学生の発想力のすごさを実感した。

	・内向的だった自分には考えられないほどとても成長できたと感じた。 ・自分から話しかけることの大切さ、人とコミュニケーションをとる重要性を実際に身につけることができた。
今後の改善内容及び展開	これまでコロナ禍の影響により、小学校での「地域安全マップづくり」を実施することができなかったが、令和4年度より再開され、実施することができた。地域安全マップは、北九州市役所との連携を軸として、北九州市内の小学校の授業の一環として実施されるため、実習を通じて行政の取り組みに直接携われると同時に、個々の成長につながっていくことでやりがいにもつながることが大きな魅力でもある。 北九州市役所の担当者より「今後も八幡西区を中心として、本学にご協力頂きたい」とのことで、本学の取り組みに期待して頂いているため、その期待に応えていけるよう、引き続き、尽力していきたい。



フィールドワーク



事前学習



安全マップ作成



安全マップ完成

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		折尾まちづくり記念館特別展示（折尾の歴史）
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	北九州市役所
	責任者	北九州市役所
事業実施日・回数		2022 年 4 月～2023 年 3 月 《 全 4 回 》
実施場所		九州共立大学／北九州市折尾まちづくり記念館
事業対象者 参加人数		事業対象者：北九州市民（特に折尾の住民） 参加人数（学生ボランティア）：12 名
経 費		地域連携推進センター／北九州市折尾まちづくり記念館特別展示
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 折尾の町の活性化に資するため、地域の歴史をはじめ地域に関する情報を住民に提供する。学生ボランティアが取材した折尾学（地域学）の内容を折尾まちづくり記念館にて特別展示した。 2. 実績 折尾エリアの歴史をテーマに、学生が文献・資料に基づいて研究、関係者からも情報を収集して整理したものを、折尾まちづくり記念館にて特別展示した。 3. 効果 多くの折尾の住民に特別展示の鑑賞に来館していただいた。来場者からは、地域の魅力を再認識することができたとの声が多かった。学生にとっても、地域活性化への取り組みの経験になった。
学生の声		地域を支えているのは地域住民であり、地域住民が地域に目を向けることで「つながりづくり」をもたらし、「まちづくり」になるとの認識を得たようである。地域の課題解決の取り組みに関わった経験に充実感をもったようである。
今後の改善内容 及び展開		今回の取り組みで、地元をフィールドにした活動に取り組む意義と地域活性化への効果も期待できることが示された。地域の住民に地域のことに目を向けてもらう手法として、地域の歴史再発見とその内容を広く伝える（例えば、記念館での特別展示）ことが有効なことであることも明らかになった。この活動は将来に向かって継続する予定のプロジェクトであり、地域の方が知りたくなるような内容を取り上げたい。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		折尾プロジェクトⅢ（折尾学Ⅲ）（折尾の歴史）
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	北九州市役所
	責任者	北九州市役所
事業実施日・回数		2022 年 4 月～2023 年 3 月 《 全 5 回 》
実施場所		九州共立大学／北九州市折尾まちづくり記念館
事業対象者 参加人数		事業対象者：北九州市民 参加人数（学生ボランティア）：12 名
経 費		地域連携推進センター／北九州市折尾まちづくり記念館
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 折尾エリアの「過去」「現在」「未来」をテーマに、学生が文献・資料に基づいて研究、関係者からも情報を収集して整理したものを「折尾まちづくり記念館」にて特別展示した。その成果をもとに地域学としての折尾学Ⅳを作成し、折尾の住民をはじめ広く公開した。 2. 実績 折尾は教育、交通機関（駅）以外にも、日本の近代化を支えた堀川関係の遺跡をはじめ神社仏閣も多くある。歴史資産を有するまちである折尾の魅力を再発見する地域学を折尾の内外に公開した（冊子、PDF）。 3. 効果 折尾学（地元をフィールドにした活動）に取り組む意義と地域活性化への効果があった。地域の住民に地域のことに目を向けてもらうことができ、自治体や地域住民から学生たちの活動は地域貢献と認められた。
学生の声		地域の課題解決（地域活性化、まちづくり）の取り組みに関わった経験は貴重だと認識し、活動そのものに充実感をもったようである。
今後の改善内容 及び展開		本プロジェクトでは、豊富な地域資源を活用しまちの魅力再発見の内容を掘り起こした。これらの内容は、後世に伝えるべき地域の歴史であり、整理・伝達に期待が深まっており、折尾学は継続プログラムとしたい。次年度はさらに興味深い内容になるように、折尾の住民との連携・協働によって魅力再発見の質を向上させていきたい。

令和4年度
北九州市・九州共立大学
地域連携事業

折尾学Ⅲ

～折尾まちづくり記念館・第1回特別展示プロジェクト～



九州共立大学
スポーツ学部スポーツ学科
山田 明 研究室

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		第 21 回堀川いっせい清掃
九州共立大学	担当者	甘 長青（ちょボラ部部长）
	所 属	経済学部
連携機関	機関名	堀川まちおこし事業実行委員会
	責任者	おりお堀川を愛する会 重藤 一 氏
事業実施日・回数		2022 年 10 月 2 日（日）9:00～11:00 《 全 1 回 》
実施場所		八幡西区折尾地区〔堀川周辺〕
事業対象者 参加人数		事業対象者：周辺地域の教育機関、企業、行政、地元住民、など 参 加 人 数：九州共立大学学生 12 名（引率者・甘を含む）
経 費		なし
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 清掃活動を通じて、堀川の偉大さやふるさとする心と心を育み、堀川をきれいな川に再生させるなど、住みやすいまちになることを目指して取り組み続けている。 2. 実績 コロナ禍のため人数制限がされている中でも多くの高校や大学、企業などの団体の方々の協力があった。人の目につかないようなところまで配慮し、たくさんのゴミを集めることができた。毎年参加している学生もあり、流れや場所が分かっていたので、柔軟に対応することができた。 3. 効果 開会式で堀川の歴史について説明の後に実際に歩いたことにより、堀川の素晴らしさを知るきっかけともなった。
学生の声		堀川の周辺だけではなく、川の中の小さなゴミまで見落とすことなく回収できた。いつもより連携が取れていたこと、また経験者が多かったので、臨機応変な対応ができた。
今後の改善内容 及び展開		コロナ禍も終わりを迎えてきているので、様々な学生に参加してもらいたい。今年度は 3 年生が多かったので、1・2 年生にも積極的に参加してもらおうよう、呼びかけていきたい。



←川の中の人と連携を
取りながらゴミを引き
上げている様子

ペットボトルや食品ト
レーのほか、自転車等も
引き上げられました。

下の写真は今回の回収
されたゴミの一部です。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		ゆずフェスティバル
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	福岡県立社会教育総合センター／福岡県教育委員会
	責任者	福岡県立社会教育総合センター
事業実施日・回数		2022 年 11 月 《 全 1 回 》
実施場所		福岡県立社会教育総合センター
事業対象者 参加人数		事業対象者：福岡県民 参加人数（学生ボランティア）：27 名
経 費		地域連携推進センター／福岡県立社会教育総合センター（謝金等）
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 地域に開かれた施設づくりの一環として、福岡県立社会教育総合センターの施設や自然を活用した様々な創作活動・体験活動等を地域住民へ提供し、同センターの事業等への理解を深めるとともに、ボランティアの育成を図る。プログラム対象は小学生以下の児童で、活動内容は創作活動・体験活動等である。 2. 実績 例えば、丸太切り体験、コースターづくり、火起こし体験、動物へのえさやり体験、スポーツ体験などである。ボランティア学生は、プログラム参加者（児童）へのサポートを実施した。 3. 効果 センター職員と連携・協働してプログラムを効果的に実施するなど、本事業を成功させる原動力になった。
学生の声		本事業プランに参加した学生ボランティアの多くは、生涯学習・社会教育に興味をもっており、貴重な経験になったようだ。活動後の充実感とともに異世代に関わることの難しさも理解したようであった。
今後の改善内容 及び展開		本事業プランは、毎年、学生ボランティアがサポートしているものである。さらに充実して児童へサポートできる事前準備を実施したい。学生は、異世代とのコミュニケーションにやや難しさを感じているようなので、次年度はその点を重点的に準備したい。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		はじめてのファミリーアウトドア講座 キャンプ編
九州共立大学	担当者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	福岡県立社会教育総合センター
	責任者	学習サポート室長 松井 淳
事業実施日・回数		2022 年 6 月 18 日（土）～6 月 19 日（日） 2022 年 9 月 10 日（土）～9 月 11 日（日）《 全 2 回 》
実施場所		福岡県立社会教育総合センター内キャンプ場（たけのこ広場）
事業対象者 参加人数		県内の青少年（高校生以下）とその家族 10 組程度×2 回
経 費		1 家族（4 人）あたり 4,800 円程度
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 県内の高校生以下の青少年とその家族を対象に、野外活動の基礎的なスキルとマナーを学ぶ講座や演習、実技を通して、自然体験の意義や自然環境の大切さ、マナーを理解し、実践する意欲を高める。また、体験活動の普及・啓発を図る。 2. 実績 今年度で 2 回目の開催となる。 3. 効果 コロナ禍で人との関係が希薄にならざるおえない中で、ファミリーやファミリー同士の関りを深めることができた。
学生の声		親子でのキャンプに参加者全員が楽しんで頂いていました。特に子どもたちの楽しそうな顔が印象的でした。 キャンプは初めてのファミリーを対象とした事業だったので、お母さんと 2 人で参加されていた小学校低学年の子どもさんがテント設営や野外炊飯でお母さんを助けて頑張っていた姿がとても印象的でいいなと思いました。 さまざまなスキルを身に付けて指導できるようになりたいと思いました。（スポーツ学部 花田海人）
今後の改善内容 及び展開		キャンプインストラクター資格取得で学んだことを実際に教える経験は、とても学生にとって貴重な機会である。 今後も、社会教育総合センターとの連携を深めながら、福岡県の青少年の育成に貢献したい。



キャンプファイヤー

テント設営



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		第 39 回中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	福岡県立社会教育総合センター／福岡県
	責任者	福岡県立社会教育総合センター／実行委員会
事業実施日・回数		2022 年 5 月 《 全 1 回（3 日間） 》
実施場所		福岡県立社会教育総合センター
事業対象者 参加人数		事業対象者：中国・四国・九州地区の生涯教育関係者（自治体を含む） 参加人数（学生ボランティア）：12 名
経 費		地域連携推進センター／福岡県立社会教育総合センター（謝金等）
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 福岡県教育委員会および日本生涯教育学会九州支部が主催するもので、「まちづくり」「人づくり」「つながりづくり」に取り組んでいる関係者が一堂に会し、実践発表を通して相互交流を図る大会である。学生ボランティアが本会の運営に協力した。 2. 実績 中国・四国・九州地区の生涯教育関係者（自治体を含む）が一堂に会して実施する西日本最大の生涯教育プログラムの成功に大きく貢献した。具体的には、受付・分科会および交流会サポート・会場設営などである。 3. 効果 学生ボランティアは、生涯教育関係者、例えば、自治体関係者、教員、公務員などと交流しながら一緒に大会を運営した経験からコミュニケーション能力、情報集能力、課題解決能力などを向上させた。
学生の声		日本生涯教育学会、福岡県をはじめとする各自治体の教育委員会からの参加者と一緒に 2 日間にわたる西日本最大の生涯教育プログラムを成功させた充実感を感じていた。その中で自らの進路志望に関係する人達との交流で情報を獲得したことも有益な経験だという声が多かった。
今後の改善内容 及び展開		本事業プランは、毎年、学生ボランティアがサポートしているものである。さらに充実して運営に関わることができるよう事前準備を実施したい。学生においては企画段階から参加したいという希望も多かったので、大会事務局とも連携しながら、次年度は企画段階からの参加となるように検討したい。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		ひこさんジュニアキャンプ（スポーツ社会教育実習）
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	福岡県立英彦山青年の家／福岡県
	責任者	福岡県立英彦山青年の家
事業実施日・回数		2022 年 5 月 《 全 1 回（2 日間） 》
実施場所		福岡県立社会教育総合センター
事業対象者 参加人数		事業対象者：福岡県立英彦山青年の家の利用者（一般） 参加人数（学生ボランティア）：20 名
経 費		地域連携推進センター／福岡県立英彦山青年の家
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 本学スポーツ学部のスポーツ社会教育実習を、青少年教育施設および社会教育施設で実施することにより、社会教育の目的である規律・協働・友愛の精神の涵養と実習先での諸活動を通して社会教育（生涯学習）施設の運営を体得する。 2. 実績 福岡県立英彦山青年の家の利用者（一般、小学生）が参加するキャンプのプログラムのサポートを務めた。同青年の家の主催事業の成功に貢献するとともに、学生は社会教育施設の運営も学ぶことができた。 3. 効果 本プログラムは、社会教育主事任用資格の取得に必要な科目を学ぶ実習であり、同時に福岡県立英彦山青年の家でのボランティアも兼ねている。プログラム成功への貢献と学生の社会教育の経験という学習効果も実現できた。
学生の声		学生は、ボランティアの経験を通して社会教育施設の存在意義を理解したようだった。同施設職員の活動の様子を見ながら、資格取得について一層モチベーションが向上した学生が多かったようだ。キャンプの指導については、初めての学生ばかりで少し戸惑った様子が伺われた。
今後の改善内容 及び展開		次年度のプログラムでは、キャンプの指導を事前研修として実施しておきたい。特に小学生への指導は事故防止の観点から、危機管理を含めて準備をさせ実習に参加させたい。

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		第 33 回全国ふうせんバレーボール大会
九州共立大学	担当者	花田 道子、九州共立大学女子バレーボール部
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	日本ふうせんバレーボール協会
	責任者	会長 林 英之
事業実施日・回数		2023 年 3 月 19 日（日）《 全 1 回 》
実施場所		北九州市立総合体育館
事業対象者 参加人数		参加者：30 チーム（約 300 人） 九州共立大学女子バレーボール部員 10 名
経 費		大学バス移動経費
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 1989(平成元)年に北九州市において「障がい者の完全参加と平等」をコンセプトとして開発された「ふうせんバレーボール」の普及を通じ、障がい者の社会参加を進め、ふれあいの和を広げながら「誰もが支えあって生きる社会の実現」を目指した大会である。 2. 実績 本会は近年コロナ禍で中止が続いていたが、今年で 33 回目を迎え約 3 年ぶりに競技発祥の地、北九州に熱戦が戻った。運営ボランティアとして、本学学生が副審を務めた。 3. 効果 共生社会の実現に貢献できた。学生たちが障がいに対する理解を深め、スポーツはみんなのものであることを実感することができた。
学生の声		●審判をしてみて障がいを持っている方でも周りのサポートを受けて笑顔でボールを繋いでいる姿を見てこの競技の素晴らしさを改めて感じました。最後に参加してみて選手の方に教えて貰いながら、段々とコツを掴んでいき楽しくプレーすることができたので良かったです。 ●障がいの有無に関わらず、子供から大人まで誰もが参加出来るスポーツはなかなか無いからこそ、すごくいいスポーツだなと思いました。また、思っていたより深いスポーツで見えていても、実際にプレーしていても本当に楽しかったです！今日はすごくいい経験になりました。
今後の改善内容 及び展開		ふうせんとは言え、かなりのスピードのあるアタックやサーブ展開がなされるため、バレー経験者でないと難しい。毎年恒例の行事であることからバレーボール部のサポートが必要となる。そのため、大学から総合体育館往復の貸切バスの存在はとてもありがたい。 学生たちがボランティア活動に参加し易い環境を準備することも大切なことであると考えます。



副審と交流試合にも参加させてもらいました☆彡



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		小学生のためのレベルアップ短期水泳教室
九州共立大学	担当者	森 誠護、重枝 武司
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	水巻町教育委員会、芦屋町教育委員会
	責任者	
事業実施日・回数		夏期：2022 年 8 月 8 日（月）・9 日（火）・10 日（水） 13 時 00 分～14 時 30 分 春期：2023 年 3 月 27 日（月）・28 日（火）・29 日（水） 13 時 00 分～14 時 30 分
実施場所		福原学園屋内公認プール（25m×6 コース、水深 1.35m）
事業対象者 参加人数		九州共立大学近隣に在住の小学 1 年生～6 年生 夏期：8 名 春期：23 名
経 費		あり（地域連携推進センターより支出）
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 コロナ禍の影響により小学校での十分な水泳教育が行えていないのが現状であり、本事業では、水泳の普及を目的とした水泳教室を実施することで、本学近隣に住む小学生の泳力向上の一助とすることを目的とする。 2. 実績 2021(令和 3)年度は、春期の実施であったが、今年度は新型コロナウイルス感染症に対する万全な対策のもと、夏期・春期とも実施することができた。対象者は初心者から中級者の小学生を対象としており、6 コースに分けて実施した。基本的な水中運動やクロール・平泳ぎ・背泳ぎの技術習得などを主に実施した。 3. 効果 近隣の小学校では、コロナ禍において学校の授業で水泳が行われていない現状があるため、短期間の事業であったが、受講前に比べて泳力を向上することができていた。
学生の声		水泳教室終了後には、参加者ならびに保護者にアンケートを回答して頂いたが、「楽しかった」「次年度も開催してほしい」「上級レベルを設定してほしい」など好意的な意見が得られた。
今後の改善内容 及び展開		新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、継続実施する。

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		宮古島における国際研究会
九州共立大学	担当者	島尻 芳人
	所 属	共通教育センター
連携機関	機関名	宮古島市役所教育委員会
	責任者	教育部 学校教育課 砂川 睦紀
事業実施日・回数		2022 年 12 月 15 日～18 日 《 全 1 回 》
実施場所		宮古島市未来創造センターおよび宮古島市役所
事業対象者 参加人数		対面参加者 68 名、オンライン参加者 10 名の合計 78 名
経 費		あり（井上科学振興財団、天文学振興財団、参加費等より支出）
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 日本の電波天文学界において大きな節目が訪れたため、これまでの研究成果を俯瞰し、今後の計画を議論するために国際研究会を開催した。 2. 実績 ①招待講演 16、寄稿講演 36、ポスター講演 27 ②開催地への還元として一般向け講演会を実施した。 3. 効果 ①オンラインでの会議では停滞していたプロジェクトが進展した。 ②各プロジェクトの進行状況を詳しくシェアすることで、今後の進展に大きく貢献した。 ③若手―シニア間および若手同士の新たな交流が生まれた。
学生の声		本学学生の参画はなかった。
今後の改善内容 及び展開		若手の方々に講演の機会を増やすため、講演数を可能な限り増やした。そのため、ポスターセッションの時間が短くなってしまい、ポスター発表の議論がされる機会が少なくなった。次回開催する際は、ポスターセッションの時間もしっかりと確保したい。

国際研究会の現地参加者の集合写真



一般向け講演会の様子



国際研究会の様子を取り上げた記事
(宮古新報, 2022 年 12 月 18 日)



一般向け講演会の様子を取り上げた記事
(宮古毎日新聞, 2022 年 12 月 18 日)



宮古毎日新聞にて、宮古島市教育委員会 大城裕子教育長は、「宇宙が少し近くなった気がする。子供たちが宇宙のことを知ることが出来る機会をもっと作りたい。星がきれいに見えるという地の利を生かした教育の場を創出していきたい」と語っており、開催地からも好評を得ることができた。

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		自然科学研究機構国立天文台（大学支援経費）受託研究
九州共立大学	担当者	島尻 芳人
	所 属	共通教育センター
連携機関	機関名	名古屋大学および国立天文台
	責任者	立原研悟准教授および Arzoumanian Doris 助教
事業実施日・回数		2022 年 8 月～2023 年 3 月末
実施場所		九州共立大学
事業対象者 参加人数		名古屋大学 9 名、国立天文台 1 名、鹿児島大学 4 名他
経 費		あり（大学支援経費および科研費等）
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 本事業の目的は次の3点である。(1)機械学習の天文学研究への応用、(2)九州共立大学を拠点とした天文学研究の拠点構築、(3)九州共立大学における教育に生かす。 2. 実績 ①日本最大の電波望遠鏡 45m 鏡による観測を実施した。 ②本学を中心とした研究グループを構築した。 ③やる気支援事業「観測天文学への招待」講座を実施した。 3. 効果 ①論文執筆に十分なデータが取得できた。 ②10 名以上からなるプロジェクトが構築できた。 ③本学から観測を行い、本学の学生に見学の機会が提供できた。
学生の声		本学学生の参画はなかった。
今後の改善内容 及び展開		夜間割り当ての観測が多かったため、本学の学生が見学できる機会が少なかった。今後、本学から観測を行う機会がある場合は、より効果的に周知することで、より多くの学生が最先端の科学観測を体験する機会を提供したい。

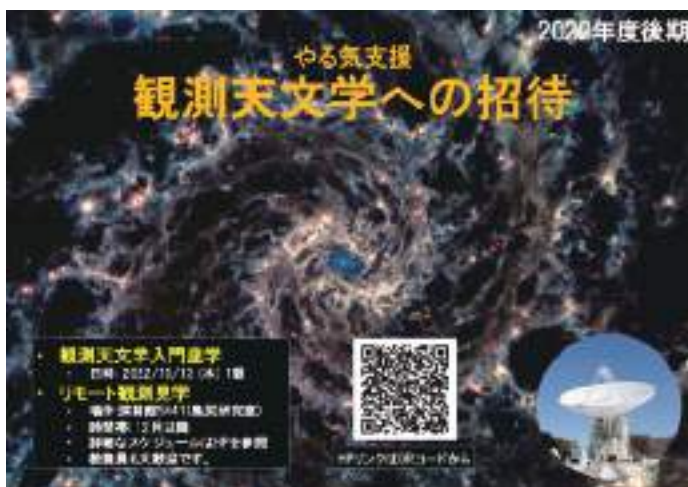
野辺山 45m 鏡のリモート観測の様子(名古屋大学)



令和4年度に構築した研究グループ



やる気支援の案内ポスター



九共大からのリモート観測システム



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		宗像市「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」 サステナブルツーリズム推進に向けた観光資源活用プロジェクト
九州共立大学	担当者	梅田 勝利
	所 属	経済学部
連携機関	機関名	宗像市役所
	責任者	宗像市役所総務企画課
事業実施日・回数		2022 年 6 月～2023 年 3 月
実施場所		九州共立大学／宗像市（宗像大社）／宗像市（宗像大島）
事業対象者 参加人数		事業対象者：宗像市の観光客、市内小中高等学校の児童生徒 参加人数（学生含む）：8 名
経 費		地域連携推進センター／宗像市
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 本プロジェクトは、①レジリエントなまちづくりをツーリズムの観点から推進して、②観光客など県外からの滞在人口を増加させ、③地域経済活性化を図り、④市内児童生徒が本学学生と共にまちづくりに参画することを目的とした。すなわち、このプロジェクトでは、多世代交流による地域共創社会の実現を想定し、その核となる人材を育成することをねらいとした。 2. 実績 本プロジェクトで想定した多世代交流によるワークショップ、フィールドワーク、インタビュー調査等が実施できなかったため、本学学生のみで世界遺産を対象にそれらを実施して、デジタル冊子を作成した。想定外の状況に学生は苦戦したが、調査・ヒアリングの際に、宗像市大島行政センターや地域住民には好意的に協力していただき、活路を見出すことができた。 3. 効果 想定したプロジェクト内容と異なることとなったため、本学学生に対して目的は同じで、方法を変更するように指示した。結果的には、メンバー全員の状況把握力、創造力、働きかけ力が向上したと感じている。観光資源そのものを活用することはできなかったが、観光資源を活用するために考究する人材は育成することができたと感じている。
学生の声		張亦弛（M1。本プロジェクト学生代表）「当初提案されたプロジェクト内容と異なるため、どのように進めればよいのかわからなかったが、目的は同じで方法が違うだけだと解釈して、本プロジェクトに取り組んだ。結果的には、メンバー全員の柔軟性、計画力、実行力が向上したと考えている」
今後の改善内容 及び展開		今回は様々な面で勉強になった。2023 年 3 月に観光庁が公表した「ポストコロナ時代における観光人材育成ガイドライン」では、観光人材として①観光地経営人材（観光地全体の経営、観光地域づくりを担う人材）と、②観光産業人材（観光地における個々の事業経営を担う人材）を育成すると述べている。今後は①育成の観点から、本プロジェクトの継続を図りたい。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		2022 年度
事業プラン名		宗像市「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」 ムナカタの地域学『大島学～玄海の浦奉行と流人伝説～』
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	宗像市役所
	責任者	宗像市役所総務企画課
事業実施日・回数		2022 年 4 月～2023 年 3 月 《 全 6 回 》
実施場所		九州共立大学／宗像市（地島）／福津市（宮地嶽神社）
事業対象者 参加人数		事業対象者：宗像市民 参加人数（学生ボランティア）：12 名
経 費		地域連携推進センター／宗像市
事業プランの目的・内容等 及び実績と効果		1. 事業プランの目的・内容等 宗像市と九州共立大学との包括的地域連携協定に基づき、筑前大島の地域活性化を目的に、豊富な歴史遺産、文化、伝統、産業などの魅力を掘り起し、冊子を編集して島内外に広報する地域学を構築した。 2. 実績 学生ボランティアが、文献調査およびフィールドワークなどを通して大島の魅力を再発見する冊子を作成し、宗像市役所に寄贈することで地域活性化に寄与した。 3. 効果 筑前大島の豊かな歴史遺産と大学の知・学生の学びを協働させ、地域住民のシビック・プライド（地域自慢）を喚起した。
学生の声		活動を通してコミュニケーション能力、情報収集力、課題解決能力などの力が向上したとの声が強かった。また地域の魅力を再発見する活動を住民と一緒にすることで、自らの地域に対する認識も高まって行ったようだ。
今後の改善内容 及び展開		今後の活動として、以下の事項を継続したい。 ①本冊子（『大島学～玄海の浦奉行と流人伝説～』）を宗像市内外の人を対象に広く普及するため、冊子の内容の理解を容易にするようなサブ冊子を作成する。 ②『大島学～玄海の浦奉行と流人伝説～』をもとに、学生による講演を企画実施する。 ③『大島学～玄海の浦奉行と流人伝説～』を活用し、地域住民との交流会を開催、さらに地域住民のシビック・プライド（地域自慢）を高揚させる。



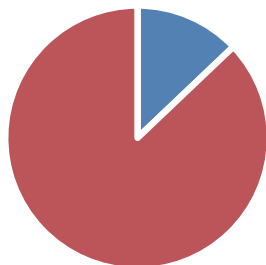
2022年度【前期・後期】公開講座実施報告

2022年度に地域連携推進センターで開催された講座は、前期3講座、後期3講座の合計6講座でした。
講座の延べ人数は694名、受講生は62名でした。

【公開講座】

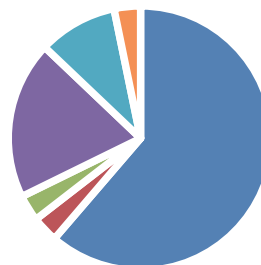
コース	No	講座名	実施期間・回数	受講生数			担当講師
				男	女	合計	
語学	1	美しい韓国語（前期）	5/10～8/2 火曜日 10：00～11：30 12回	2	5	7	朴 淑子
		美しい韓国語（後期）	10/4～2/7 火曜日 10：00～11：30 16回	2	5	7	
芸術	2	歌う喜び「世界の名曲」（前期）	5/11～7/27 水曜日 13：30～15：00 6回	1	8	9	八代 眞知子
		歌う喜び「世界の名曲」（後期）	10/12～2/1 水曜日 13：30～15：00 8回	1	5	6	
	3	書道技法講座（前期）	5/6～7/29 金曜日 13：05～14：35 12回	1	16	17	九州女子大学 古木 誠彦
		書道技法講座（後期）	10/7～2/10 金曜日 13：05～14：35 12回	1	15	16	
公開講座 計				8	54	62	

性 別



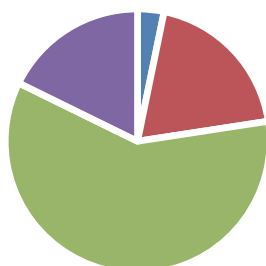
■ 男 ■ 女

居住地



■ 八幡西区 ■ 八幡東区 ■ 小倉北区
■ 若松区 ■ 遠賀郡 ■ 中間市

年 代



■ 40代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80代

※アンケート※

- 各々のレベルにあった実技指導をしていただき、大満足です。
- 今回も臨書を通して、新しい発見や驚きの部分など、楽しい学びとなりました。
- 漠然とした時代背景を想像できるのは楽しいです。この様な解説を受ける機会はないので、時代との書法を学べることがありがたいです。
- 色々な書法があり、毎回楽しく受講しています。講座を受けるのが楽しみです。
- 書の歴史を学べて楽しいです。また、受講させていただきます。
- 数年来、書道を習ってきましたが、臨書が基本と良く分かりました。書の歴史も改めて学び、大変勉強になりました。
- 書の歴史や技法等について、詳しく、分かりやすく教えていただき、ありがとうございました。
- 韓国語の勉強だけでなく、日韓の文化の違いも分かり、勉強になりました。
- 単語を覚えたり、文章を読んで訳すことで、頭を使うことが多くなり、少しは老化を防げていると思います。
- 講師の先生が、時間いっぱい使っていつも一生懸命説明してくださるので、とても感謝しています。
- 毎回、とても楽しく学習出来て、少しずつ身になっていることが嬉しいです。引き続き勉強したいと思っています。
- 大きな声を出して歌うことが出来るとも貴重なチャンスと、皆さまとお話しをさせていただく時間を、ありがとうございます。
- いつも素敵な曲を用意してくださり、優しく教えていただきました。皆さんと一緒に歌って、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

九州共立大学地域連携推進センター

2022年【前期】

公開講座開講一覧

美しい韓国語	

韓国のドラマや旅行を楽しもう	

期間：5月10日～8月2日	

講師	朴 淑子
日 程	5月10日・17日・24日・31日

	6月7日・14日・21日・28日

	7月12日・19日・26日

	8月2日
時間	10時00分～11時30分
受講料	12,000円
定員	10名

歌う喜び「世界の名曲」	

日本や世界の歌を味わい、表現しよう	

期間：5月11日～7月27日	

講師	八代 眞知子
日 程	5月11日・25日

	6月1日・22日

	7月13日・27日

時間	13時30分～15時00分
受講料	6,000円
定員	20名

書道技法講座	

臨書に挑戦！！	

期間：5月6日～7月29日	

講師	古木 誠彦
日 程	5月6日・13日・20日・27日

	6月3日・10日・17日・24日

	7月1日・15日・22日・29日

時間	13時05分～14時35分
受講料	12,000円
定員	20名

九州共立大学地域連携推進センター

2022年【後期】

公開講座開講一覧

美しい韓国語	

韓国のドラマや旅行を楽しもう	

期間：10月4日～2月7日	

講師	朴 淑子
日 程	10月4日・11日・18日・25日

	11月1日・8日・22日・29日

	12月6日・13日・20日

	1月10日・17日・24日・31日

	2月7日
時間	10時00分～11時30分
受講料	16,000円
定員	10名

歌う喜び「世界の名曲」	

日本や世界の歌を味わい、表現しよう	

期間：10月12日～2月1日	

講師	八代 眞知子
日 程	10月12日・26日

	11月9日・30日

	12月14日・21日

	1月11日

	2月1日
時間	13時30分～15時00分
受講料	8,000円
定員	20名

書道技法講座	

臨書に挑戦！！	

期間：10月7日～2月10日	

講師	古木 誠彦
日 程	10月7日・14日・21日

	11月11日・18日・25日

	12月2日・9日

	1月13日・20日

	2月3日・10日
時間	13時05分～14時35分
受講料	12,000円
定員	20名

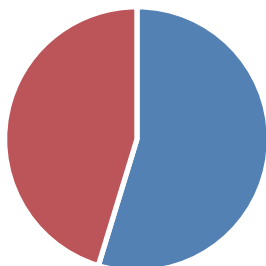
北九州 市民カレッジ 講座

北九州市立生涯学習総合センターと連携して行う事業で、市民の高度で専門的な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、自己実現の促進、地域社会の活動向上及び生涯学習社会を担う人材の育成を図るために行う講座です。2022年度は、53名（男29名・女24名）の受講生数でした。

講 座 名	日時・回数・場所	受講生数	担 当 講 師
スポーツ吹矢で免疫力を高めよう！（前期）	5/27～9/30 金曜日 10：00～11：30 10回 自由ヶ丘会館3階	11	九州共立大学 名誉教授 信田 よしの
スポーツ吹矢で免疫力を高めよう！（後期）	10/28～2/24 金曜日 10：00～11：30 10回(※) 自由ヶ丘会館3階	13	九州共立大学 名誉教授 信田 よしの
数学総集編前編	5/23～8/1 月曜日 13：00～15：00 10回 自由ヶ丘会館3階	16	元九州共立大学 教 授 江口 弘文
数学総集編後編	10/24～1/16 月曜日 13：00～15：00 10回 自由ヶ丘会館3階	13	元九州共立大学 教 授 江口 弘文

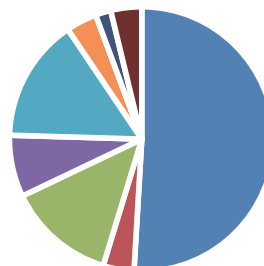
(※)大雪のため中止となった1回分を、別日3日間で、それぞれ時間延長して対応した。

性 別



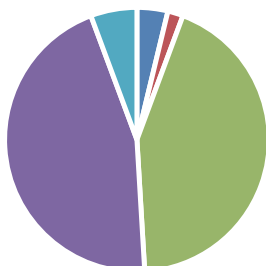
■ 男 ■ 女

居住地



■ 八幡西区 ■ 八幡東区 ■ 小倉北区 ■ 小倉南区
■ 若松区 ■ 戸畑区 ■ 遠賀郡 ■ 門司区

年 代



■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80代

＊受講生アンケート＊

- ・ とても楽しい講座でした。
- ・ 毎回楽しく参加させていただきました。
- ・ 年齢的ハンデが少なく、自分のペースで楽しむことが出来ることが良いと思います。
- ・ 呼吸法の習得に役立ちました。
- ・ 久しぶりの数学の勉強で大変楽しかったです。これを機に、また学び直していきたいと思います。
- ・ 元々、理数系が苦手でしたが、パンフレットで小学校からの内容を学習できると知り、参加しました。
- ・ 時々理解が難しいところもありましたが、テキストに沿っての説明は分かりやすく、これを機に自分でも問題を解いてみたいと思います。
- ・ テキストを順番に読みながらの講座でしたが、声を出すということは、生徒としても良いと思います。
- ・ 整備された構内での受講は、快適でした。
- ・ 質問をしやすい和気あいあいとした雰囲気です講座が進み、毎回楽しく受講できました。

九州共立大学地域連携推進センター

2022年【前期】

北九州市民カレッジ開講一覧

スポーツ吹矢で免疫力を高めよう！	
期間：5月27日～9月30日	
講師	信田 よしの
日 程	5月27日
	6月10日・24日
	7月8日・22日
	8月5日・26日
	9月2日・16日・30日
時間	10時00分～11時30分
受講料	10,000円＋傷害保険料
定員	12名

数学総集編前編	
期間：5月23日～8月1日	
講師	江口 弘文
日 程	5月23日・30日
	6月6日・13日・20日・27日
	7月4日・11日・25日
	8月1日
時間	13時00分～15時00分
受講料	5,000円
定員	20名

九州共立大学地域連携推進センター

2022年【後期】

北九州市民カレッジ開講一覧

スポーツ吹矢で免疫力を高めよう！	
期間：10月28日～2月24日	
講師	信田 よしの
日 程	10月28日
	11月11日・25日
	12月9日
	1月13日・20日・27日(※)
	2月10日(※)・24日(※)
時間	10時00分～11時30分
受講料	10,000円＋傷害保険料
定員	12名

数学総集編後編	
期間：10月24日～1月16日	
講師	江口 弘文
日 程	10月24日・31日
	11月7日・14日・21日・28日
	12月5日・12日・19日
	1月16日
時間	13時00分～15時00分
受講料	5,000円
定員	20名

(※)大雪のため中止となった1回分を、別日3日間で、それぞれ時間延長して対応した。

2023 年 2 月 15 日
九州共立大学

本学は一般財団法人サンビレッジ茜と地域連携協定を締結しました。

令和 5 年 2 月 10 日、本学は一般財団法人サンビレッジ茜と「包括的地域連携に関する協定」を締結するため、本学において調印式を行いました。

調印式では、山田地域連携推進センター所長から、「今回の地域連携協定は、学生の教育や人材育成、自治体、団体等が関わる地域社会の活力に満ちた個性豊かな発展を促し、生涯学習支援、地域連携、地域課題の研究に寄与することが期待され、連携する意義は多様なものがあると考えています」と述べられました。

この協定締結を機に、充実した社会施設を所有するサンビレッジ茜において、学生の皆さんが、生涯スポーツ施設、社会体育施設の経営について学ぶ機会を共に作り上げていきたいと思います。



左 一般財団法人サンビレッジ茜 山本 隆治 理事長

右 山田 明 地域連携推進センター所長



九州共立大学
KYUSHU KYORITSU UNIVERSITY

2022 年度 九州共立大学 地域連携推進センター 報告書
発行 令和 6 年 1 月

学校法人福原学園

九州共立大学 地域連携推進センター

〒807-8585 北九州市八幡西区自由ヶ丘 1-8
TEL&FAX 093-693-3255 E-mail renkei-2015@kyukyo-u.ac.jp